

P8311096 月分 6.JPG 2020/04/25

元治元年二月廿日より元治元年二月廿二日まで

二月廿二日は文久から元治への改元の日

P8311096 right

の趣、監察江連（真）着の趣に付、賀使遣す、同人方より猶返謝の使者せし頓、同人に附

添の外濱代官芹川某尋問せし旨、明日、江連方へ両支配向老人づつ□乗船見□

出役いたし候間、家来老人立命として罷出る様、□紋左衛門より、周助方迄申す越し且紋左衛門出役いたす旨也○有感一方寸心願萬成生更深不睡

過三更綏邊（*1）策略謀難祈還把兵書剔短□

廿一日 辰 晴 朝三十七度（撰氏 2.7 度） 昼五十二度（撰氏 11.0 度）

此事定役より申越儀に付周助出張す、佐藤□着せし□来り名刺を投ず、渡船乗組方の儀に付、清作来る、且駕は延□いたす様申す趣也、家来駕四挺は番所へ預敷、船奉行某

尋問に来る、番所着の賀、役一同へ遣わす、○客中、官遊却傍旬閑

煙水行過又雲山為客難忘故□夢□夜に出

P8311096 left

開遣？

廿二日 巳 晴漸陰又晴

今払暁箱館奉行組同心横、関新八郎同御雇仁杉悌三郎奉行美濃守よりの御用状持参、御船神速丸相廻り旨申聞、御用状上陸の節手続書□給内状にて御機嫌伺□無問合等の儀有し、右書類残らず太左衛門方へ廻り御目付方へも即時廻達可様申遣わす、当所浦奉行佐々木久次郎領主口上を以て（贈物）

使者に來り、土産品にて冬夏（とうか）と称する品一筥を贈る、霜糖に漬けし菓実の内、伺済の趣も有りしに

より先づ預置、神速丸の蒸気御船乗組人数割として御目付方出張の旨江連より申来る、その段支配向へ

達せし同趣出張の積り也、外濱代官芹川某尋問せし旨、神速丸御船乗組箱館方の前

兩人来る、御船長二十間横二間にて八十馬力、石炭贖高三拾日分ほど積込出来る由、清作参り合に付

一同真三郎方へ遣し諸般手続打合せ定め候様申談遣わす、船奉行薄田又三郎尋問に来る

*1: 過三更（零時過ぎ）

（内は細字双行（一行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。